

不登校の児童生徒の保護者のみなさんにお便りします

# やまびこ



兵庫県立但馬やまびこの郷  
<http://www.t-yamabiko.asago.hyogo.jp/>

## “絆”を深めた親の会

但馬やまびこの郷では、不登校及び不登校傾向の子どもを持つ保護者の研修の機会として、「やまびこ親の会」を開催しています。平成23年度も、8月27日（土）～8月28日（日）の1泊2日で実施し27名の参加がありました。その様子をご紹介します。

### 創作活動「スクイグル」にチャレンジ!!



〈スクイグルの様子〉

スクイグルの特徴は、相手の描いた不規則な描線をもとに、イメージを膨らませ作品を創り上げることにあります。また、話をしながら作業を進める中で、自然に打ち解けることができます。

参加者からは、「全然知らない方と和気あいあいと楽しく活動できた」「力を合わせて一つの作品を作り上げ、達成感が得られた」等の感想がありました。



〈やまびこフェスタで展示〉

### 専門家を囲んで～講演と参加者への助言～

#### ○不登校の子どもの理解とその状況に応じた支援について

スクールカウンセラー 松原秀子先生

「不登校は悪いことではない。自分と向き合う貴重な時間。不登校の間も子どもは成長しています」など、具体的な事例をもとにわかりやすく説明していただきました。講演後には、参加者からの様々な質問や相談に真摯にお答えいただきました。

参加者からは、「不登校の状況にあっても子どもは成長していることを痛感した」「子どもにつらい顔を見せず、笑顔を見せていきたい」といった感想が寄せられました。



〈松原秀子先生を囲んで〉

### 保護者交流会・お別れ会



〈保護者交流会〉

子どもの様子や保護者の悩みを話していただき意見交換をしました。

「多くの方の話を聞いて大変勉強になった」「悩んでいるのは自分だけではないと改めて感じた」「明日からのエネルギーをもらった」等の感想がありました。



〈お別れ会〉



# スーさんのちょっとセミナー

「家庭での子どもへの働きかけ」連載その8

## 子どもを元気にする秘訣とは何でしょう？

兵庫県立但馬やまびこの郷所長 杉村省吾

スーさんのちょっとセミナーも第8回目を迎えることになりました。これまでは、子どもたちが不登校になってから、どのような経緯をたどって、再登校にいたるのかをお話しました。

今号からは「やまびこ」に行けば、なぜ再登校が比較的短期に可能になって、高校進学ができるようになるのかの秘訣について連載したいと思います。

### 出会いの集いはコミュニケーションの第一歩

県立但馬やまびこの郷では、不登校児童生徒の支援を一層充実させるために、平成21年度および22年度に当所を過去に利用した不登校経験者のうち、中学校を卒業した15～28歳までの1,171人に対しアンケート調査を実施しました。右のグラフはこのアンケート調査項目のうち「登校できなかった時期に必要なとした支援は何ですか？」という質問に対する回答の百分率を示したものです。これを見ると「心のケア」と回答した割合は18.4%と最も多く、「相談」の充実が求められていることが分かります。続いて「学習指導」、「関係機関の紹介」、「仲間との交流」が、ほぼ同率で比較的大きな割合を占めています。ここでは特に全体の15.6%を占める「仲間との交流」について考えてみましょう。

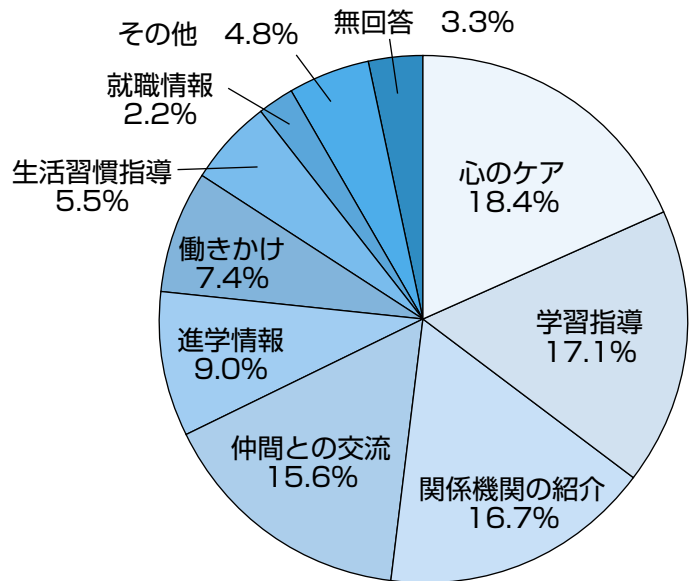


図 登校できなかった時に必要とした支援

ご存じのように県立但馬やまびこの郷での4泊5日の宿泊体験のプログラムは、第1日目の午後：出会いの集い・お互いを知ろう、第2日目の午前：料理を作ろう・午後：地域と交流しよう、第3日目の午前：自分で選ぶ活動（製作・文化活動）・午後：自分で選ぶ活動（スポーツ活動）、第4日目：遠くへ出かけよう、第5日目：お別れ会といったスケジュールが組まれています。これらの生活環境療法的（宿泊を伴った集団心理療法）プログラムのうちの「出会いの集い」は、先に示した「仲間と

の交流」を進める大切な役割を果たしています。

「始めよければ、終わり良し」という言葉があるように、この出会いの集いの存在意義は大きく、わずか1時間ぐらいの内に初対面の人が、アツという間に親しくなって人間関係が成立していきます。

この出会いの集いは「星の館」の畳の大広間に円形に座って行われ、まずスタッフの自己紹介から始まり、次に引率の教職員、ボランティアとして参加しているフレンドリーサ



出会いの集いの様子

ポーター、児童生徒、その保護者の順に紹介していきます。対人恐怖傾向のある子、場面緊張が強い子は、大広間にみんなと一緒に入れなかったり、場合によっては乗ってきた乗用車から出られずに座席にうずくまってしまう子もいます。しかし、こんな時は、無理に大広間に入ることを強制したり、命令したりせず、本人が心を開いてその気になるまで待つことが必要です。これまでの経験から言いますと、スタッフが上から目線で人を見るのではなく、子ども目線で受容的に相手を見ると、子どもたちは徐々に心を開いてくれます。

## 転移と逆転移

不登校傾向にある子どもたちと接していると、担任など特定の教師に好意を持ったり、あるいは悪意を持ったりすることがあります。また、逆に教師自身が特定の生徒に好意や悪意を抱くようなことがあります。生徒が教師に悪感情を持つことを陰性感情転移、好意を持つことを陽性感情転移と言います。これとは反対に教師が生徒に悪感情や好意を持つことを逆転移と言い、生徒に好感情を懐くことを陽性逆転移、悪感情を持つことを陰性逆転移と言います。なぜこのような現象が起こってくるかというと、人が成長過程で接した身近な人に抱いていた感情をもとにして相手を見るので、本人も気づかないうちに相手が良く見えたり悪く見えたりするからです。

従って、親や教師は、自分の逆転移現象に気づいておくことが大切です。やまびこの郷のスタッフは、このような心理的現象についてのディスカッションを日頃から重ねながら、不適切な逆転移が起こらないように、お互いにチェックし合って子どもたちと接するようにしています。ご家庭でもこのことについて一度話し合ってみられることをお勧めします。

登校できない時は、子どもの声に耳を傾け、本人が何を望んでいるのかをしっかりと把握した上で、状況に応じた適切な対応を行いましょう。



# 「やまびこフェスタ」を開催しました

昨年10月30日（日）に「やまびこフェスタ」心の虹を未来へ」を開催しました。当日は雨の中でしたが、県下各地から約260名の方々にご参加いただき、「但馬やまびこの郷」の施設や教育活動について知っていただくとともに、「不登校」について理解を深めていただく機会となりました。当日の様子を紹介します。

## 講話



元副所長“樽さん”こと片山昭則氏は、やまびこの郷創設当時に子どもたちと“ド真剣”に向き合われた体験を語られました。



笹部達也氏は、やまびこを利用した経験を踏まえ、子どもたちへメッセージを伝えていただきました。

## 「やまびこ親の会」ブース誕生

親の会の皆さんに美味しい豚汁（やまびこ鍋）を作っていました。

寒い日であったこともあり、「美味しい」「体があったまった」と参加者に喜んでいただきました。



## 日生学園 第三高等学校

グリークラブの合唱では、迫力ある歌声が虹の館いっぱいに響きました。

ジャグリングクラブには、素晴らしい技を見せていただくとともに、参加者に体験もしていただきました。



## 兵庫教育大学

### NANAっくす

不登校支援のボランティア活動を行う兵庫教育大学の学生さんによる「大シャボン玉ブース」「お茶席」。

小さな幼児から大人まで楽しんでいただきました。



私が初めてやまびこの郷に出会ったのは、中1の時でした。自分に自信が持てなくて大好きだった学校も嫌になってしまいました。「本当の私ってなんだろう、私のいいところは何だろう」と思っていた時に親に誘われて行きました。初めは、不安の連続でした。でも、スタッフや友だちに助けられて楽しく過ごせました。新しい自分が見つかったり、すぐ自信がきました。やまびこは私にとって、自分らしさを出せて、羽を休める所となりました。

今は自分の事で精一杯だけど、いつか、私が経験している事を生かして、人の役に立ちたいです。これからも、自分なりの目標に向かってがんばります。



〈篠山市内 散策〉

## 《やまびこの利用を力にして》

当所を利用した生徒が「やまびこの郷」について、自分の思いを素直に表現した作文をご紹介します。

## 「私にとってのやまびこの郷」

